

第 608 回日本良導絡自律神経学会 東日本支部研修会 12 月 18 日

東日本支部 良導絡専門師 玉井清志

皮膚電気抵抗値測定と鍼通電治療の歴史について

キーワード：電気，通電，医史学

はじめに

近年，物理療法の経皮的通電治療は電気極性の特性を利用した治療が盛んにおこなわれ，多くの研究報告がされている．鍼治療においては 1940 年代日本の京都大学で笹川久吾（1894 年 - 1968 年），中谷義雄（1923 年 - 1978 年）らは良導絡（Ryodoraku Medicine）として皮膚電気抵抗値のデータを根拠に鍼通電治療を行ってきた．近年では鍼通電治療は盛んに行われ，国内外を問わず多くの研究論文が発表されている．しかし，鍼通電治療は通電刺激を目的としている例が多く，極性に着目した研究が少ないのが現状である．経皮的通電治療の極性の違いにより効果に差があるのであれば，鍼通電治療の際にも極性により治療効果に違いがあることが考えられる．そこで本稿では電気と皮膚電気抵抗値測定の歴史から極性の特性を見直すことで，鍼通電極性治療を検討する機会としたい．

研修会は下記の順序で展開します．

序論

1. 電気の発見の歴史
2. 発電の歴史
3. 発電と電流の特徴
4. 人体の電位活動と皮膚電気抵抗値の測定
5. 電気抵抗の測定の歴史
6. 人体の皮膚電気抵抗値の測定
7. 経皮的通電治療
8. 鍼通電治療
9. 体液（細胞内液と細胞外液）
10. 人体への皮膚通電

結語

日本良導絡自律神経学会学術部

帝京平成大学院 健康科学研究科

帝京平成大学 健康医療スポーツ学部